

JACLaP WIRE No.62 (2003年9月3日発行)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.62 です。

===== 目次 =====

【お知らせ】

- 【1】 会員動向 (2003年 8月 27日現在数 653名, 専門医 468名)
- 【2】 20回 臨床検査専門医認定試験合格者
- 【3】 平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会総会予定
- 【4】 平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会 講演会
- 【5】 平成15年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会 常任・全国幹事会

【WHO トピックス】

- 【1】 エイズウイルス感染者に対して WHO が抗結核剤の利用を呼びかけ
<Press July 200 WHO-171>
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 8月1日号から】
厚労省国立病院部 検査入札参加要件「CAP認定取得」を削除
日本臨床検査医学会 DPC関連などで要望書策定へ
名古屋市大が学会申請へ 卵子の着床前診断を承認
群馬大学病院 DPC導入で注射や投薬、検査が減少
オムロンヘルスケア 動脈の硬さを計測するセンシング技術を開発
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 8月11日号から】
JCCLSとJAB ISO15189認定制度で来年度パイロットスタディ開始
保団連 SARS診断法の確立、受診ルールの周知を要望
日本光電 かかりつけ医向け診療支援システムを上市
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 8月21日号から】
JCCLS尿検査標準化委員会 尿試験紙の国内標準化案まとまる
藤田保健衛生大学病院 検査部稼働収入の7割は計上されず
臨薬協 次回診療報酬改定にむけ要望書提出
厚労省・実態調査速報 成人の6.3人に1人が糖尿病・予備軍
厚労省 02年度医療保険医療費は0.7%減
プロメガ 磁性粒子などを利用した自動核酸精製システムを構築

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】

会員動向 (2003年 8月 27日現在数 653名, 専門医 468名)

新入会員

簾籬 紘子 先生： 順天堂大学浦安病院検査科

【お知らせ- 2 】

第 20 回 臨床検査専門医認定試験合格者 氏名（50 音順，敬称略） 所属

石原 法子	済生会新潟第二病院	検査部
五十嵐誠治	栃木県立がんセンター	臨床検査部
入江 康司	佐賀県立病院好生館	検査科
植木 重治	秋田大学医学部附属病院	中央検査部
梅田 遵	利根中央病院	内科
大澤 春彦	愛媛大学医学部	臨床検査医学
大竹 千生	愛知医科大学	内分泌代謝糖尿病内科
小澤 哲夫	富山医科薬科大学	臨床検査医学教室
蒲池 綾子	大分市医師会立アルメイダ病院	病理部
木口 英子	済生会神奈川県病院	病理科
黒住 昌史	埼玉県立がんセンター	病理科
小谷 和彦	鳥取大学医学部	臨床検査医学
小谷 富男	宮崎医科大学	臨床検査医学
西郷 勝康	神戸大学医学部附属病院	輸血部
佐川 公矯	久留米大学病院	臨床検査部
佐熊 勉	岩手県立中央病院	臨床検査部
真治 紀之	岡山大学医学部附属病院	中央検査部
菅井 有	岩手医科大学医学部	臨床病理部門
竹下 明裕	浜松医科大学医学部	臨床検査医学
田島 康夫	帝京大学医学部附属溝口病院	臨床病理科
八幡 朋子	大阪市立大学医学部附属病院	病理部
福本 誠二	東京大学医学部附属病院	検査部
古田 朋子	国立南和歌山病院	研究検査科
前島 俊孝	国立長野病院	研究検査科
水島 孝明	岡山大学医学部	中央検査部
八木橋厚仁	札幌医科大学医学部	臨床検査医学
吉澤 明彦	信州大学医学部附属病院	臨床検査部

以上 27 名の先生方が合格されました（日本臨床検査医学会より）。
難関突破おめでとうございます。今後のご活躍を期待いたします。

【お知らせ- 3 】

平成 15 年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会総会予定

日時：2003 年 10 月 28 日（火）13 時～14 時

場所：広島国際会議場 第 2 会場（ヒマワリ）

【お知らせ-4】

平成 15 年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会 講演会

日時：2003年10月28日(火) 14時00分～15時50分

場所：広島国際会議場 第2会場(ヒマワリ)

パネルディスカッション「全員参加で徹底討論、未来ビジョン」

司会(敬称略)

高木 康(未来ビジョン検討委員会 委員長)

土屋達行(未来ビジョン検討委員会 副委員長)

パネラー(敬称略、講演1人10分、休憩10分、総合討論40分)

下 正宗(未来ビジョン検討委員会 臨床検査医学教育プログラムWG チーフ)

船渡忠男(未来ビジョン検討委員会 遺伝子検査標準化WG チーフ)

市川徹郎(未来ビジョン検討委員会 健診における検査専門医の役割検討WG チーフ
・広報委員会設置提案WG チーフ)

谷直人(未来ビジョン検討委員会 臨床検査医による固有の診療科検討WG チーフ)

村田哲也(未来ビジョン検討委員会 AP/C Pの活動支援WG チーフ)

渡邊 卓(未来ビジョン検討委員会 検査部の経済問題検討WG チーフ)

【お知らせ-5】

平成 15 年度 日本臨床検査日本臨床検査専門医会 常任・全国幹事会予定

日時：平成 15 年 10 月 28 日(火) 午前 9 時～11 時

場所：広島国際会議場 第7会場「ラン」

【WHO トピックス-1】エイズウイルス感染者に対して WHO が抗結核剤の利用を呼びかけ
<Press July 2000 WHO-171>

エイズウイルスと結核は混合感染をおこしやすく、エイズ患者の最大の死因は結核となっている。エイズ患者で結核に感染している人にはATD(INH、リファンピシン、PZA、エタンブトール)の混合投与をWHOは推奨しており、ATDを投与すると95%の患者に効果がある。WHOによるとエイズウイルス感染者が結核に感染する割合は年々増加し、特にアフリカではエイズ患者の70%以上に結核が感染している。エイズウイルス感染患者4200万人のうち、三分之一は結核に感染しており、そのうち約90%は結核の治療を受けないと2~3カ月で死亡する。一人当たりATDの治療費は10米ドルに過ぎないので、WHOは途上国でのATDの投与を推奨している。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

【MTJ (The Medical & Test Journal) 8月1日号から】

厚労省国立病院部 検査入札参加要件「CAP認定取得」を削除

検体検査に関する受託提案(入札)要件として、米国臨床病理医協会(CAP: College of American Pathologists)の精度管理プログラム認定の取得を検査センターに対して求める医療機関が増えてきている。こうした動きに対して厚生労働省健康局国立病院部は、入札参加要件にCAPライセンスを限定的に盛り込む根拠はないとの考えから、CAP認定の取得を要件から外すよう所管の国立病院に対して通知する方針を決めた。国立病院部経営監査指導室は「検討をしていることは確かだ。所管医療機関への通達は秋の契約更新交渉に間に合うよう8月中にはしていきたい」としている。

日本臨床検査医学会 DPC関連などで要望書策定へ

日本臨床検査医学会の臨床検査点数委員会(担当:渡辺清明副会長(慶応大学病院)、福武勝幸委員長(東京医科大学病院))は、中医協で診断群分類(DPC)の見直し作業が行われるなかでDPCに基づく入院包括評価制度における臨床検査医の位置づけを明確にするよう要望していく方針を決めた。8月末までに学会としての考え方をまとめ、次回診療報酬改定への要望書とともに提出していく考えだ。

名古屋市大が学会申請へ 卵子の着床前診断を承認

名古屋市立大学医学部は7月23日までに、体外受精した卵子の遺伝病の有無を検査する「着床前診断」の実施を教授会で承認した。9月にも日本産科婦人科学会の倫理委員会に申請し、倫理委員会と理事会の承認を得て、10月中の実施をめざす。

群馬大学病院 DPC導入で注射や投薬、検査が減少

群馬大学医学部附属病院は4月からDPCを導入したが、4~6月のDPCは出来高算定に換算した値と比べてプラスマイナス1%以内に収まった。また、診療行為の中で注射や投薬、検査がわずかに抑制される傾向にあったことが、医師へのアンケート調査などによって明らかになった。7月12日、都内で開かれたDPC実践セミナーで同病院医療情報部の酒巻哲夫部長が明らかにした。

オムロンヘルスケア 動脈の硬さを計測するセンシング技術を開発

オムロンヘルスケア(本社・京都市)はこのほど、手首動脈の脈波を計測し、心臓負荷、動脈の硬さと相関があるといわれるAI(Augmentation Index)を算出する高精度センシング技術を開発したと発表した。今後、同技術を用いて心肥大など心疾患との関係や動脈の硬さとの関係について臨床評価を進め、心疾患、高血圧、動脈硬化の予防・治療に応用する。来春には医療機関を対象に商品を発売する予定。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 8月11日号から】

JCCLSとJAB ISO15189認定制度で来年度パイロットスタディ開始

日本臨床検査標準協議会（JCCLS）と（財）日本適合性認定協会（JAB）は、臨床検査室にとってはじめての国際規格であるISO15189（臨床検査室における質と適合能力に対する特定要求事項）について国内施設の認定制度を共同で行うことを決め、近く検査関連団体にパブリックコメントを求める方針を明らかにした。同認定制度事業についてJCCLSとJABは、7月に準備委員会を設置、今秋には認定制度の概要を示したいとしている。同準備委員会の河合忠委員長は、来年度に2～3か所でパイロットスタディを行い、それ以降順次、認定作業を展開していく計画とした。

保団連 SARS診断法の確立、受診ルールの周知を要望

全国保険医団体連合会（室生昇会長）は8月4日、インフルエンザ予防接種の普及と重症急性呼吸器症候群（SARS）診断法の確立、受診ルールの周知を求める要望書を、坂口力厚生労働相に送付した。要望書では、今冬のインフルエンザ流行時期にSARS発生が危惧され、世界保健機関（WHO）が、SARS対策の関連で、医療関係者や抵抗力の弱い高齢者などに対するインフルエンザ予防接種の徹底を呼びかけていることを指摘。そのうえで、予防接種の普及について、高齢者など希望者への接種に万全を期すことを求めた。

日本光電 かかりつけ医向け診療支援システムを上市

日本光電工業はこのほど、波形、画像、数値の検査データを一元管理し、電子カルテとの連携も可能な、かかりつけ医向け診療支援システム「プライムパーク」（PRM-1100）を発売した。新製品は、検査データベースとインフォームドコンセントのためのコミュニケーションツールがリンクした診療支援システム。心電図、超音波画像、内視鏡画像、X線画像、数値情報など検査データを取り込み、いつでも検索・読み出しが可能。レセプトコンピュータや電子カルテと連携しての日常診療はもとより、地域医療や予防医療への展開も可能だ。

【MTJ（The Medical & Test Journal）8月21日号から】

JCCLS尿検査標準化委員会 尿試験紙の国内標準化案まとまる

日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の尿検査標準化委員会（伊藤機一委員長、折田義正・河合忠顧問）は、長年の懸案となっていた尿試験紙（蛋白・糖・潜血）の標準化について2005年12月までに完了させる方針を固めた。なかでもメーカー間で濃度表示格差の大きかった尿糖は、「100mg/dL」を「1+」（いちプラス）と表示する方向で委員会案がまとまり、今月23日のJCCLSの幹事会に答申する。同幹事会で了承されれば、国内の尿試験紙の濃度表示の統一化が達成される見通しだ。

藤田保健衛生大学病院 検査部稼働収入の7割は計上されず

愛知県の藤田保健衛生大学病院（1510床、平均在院日数23.5日）臨床検査部の小西良光係長は、DPCに基づく入院包括評価制度の導入で検査部の診療報酬での売上げの7割が計上できないとの推計を明らかにした。同院は、4月からDPC包括評価制

度を導入したが、検査関係の5月実績では前年同月比で70.1%減で検査部収入が計上されることがわかった。

臨薬協 次回診療報酬改定にむけ要望書提出

日本臨床検査薬協会（富本善久会長：日水製薬社長）はこのほど、検査関連団体では先陣を切って2004年4月に予定されている診療報酬改定に対する要望書を厚生労働省に提出した。なかでも診療報酬改定で検体検査実施料を決定する際の大きな根拠となる衛生検査所等を対象にした市場調査の結果・分析方法などについて公表するよう求めている。

厚労省・実態調査速報 成人の6.3人に1人が糖尿病・予備軍

厚生労働省が8月6日に発表した2002年「糖尿病実態調査」の結果（速報）によると、糖尿病の疑いが強い人は推計で約740万人、糖尿病の可能性を否定できない“予備軍”を含めると、1620万人に達することが明らかになった。成人の6.3人に1人が糖尿病か予備軍となる計算。とくに予備軍は5年前から200万人も増えた。糖尿病が強く疑われる人は5年間で50万人増にとどまり、「健康日本21」で2010年の糖尿病患者を1000万人に抑える方向を掲げていることからすると、厚労省は「予想したほど増えなかった」と指摘。その一方で、「予備軍の増え方は大きいので、予断を許さない」として、引き続き生活習慣の改善など普及啓発を進める必要性を強調している。

厚労省 02年度医療保険医療費は0.7%減

厚生労働省が8月8日に公表した2002年度の「医療費の動向」によると、医療保険医療費は総額で30兆2000億円と、前年度に比べ2000億円（0.7%）減少した。医療費が前年度実績を下回ったのは00年度に続いて2回目。保険局調査課は、「制度改正と診療報酬のマイナス改定によって医療費が下がった初めてのケース」と話している。00年度は、介護保険制度の創設に伴う影響が大きかったとしている。

プロメガ 磁性粒子などを利用した自動核酸精製システムを構築

遺伝子工学や細胞工学関連の機器・試薬を販売するプロメガは、シリカメンブレンや磁性粒子などを利用した自動核酸精製システムを構築、組織や細胞などから核酸を抽出する際に、顧客のニーズに応じて簡便、迅速、効率的に抽出できる製品群を提供する。システムの構築にあたっては、市販の自動分注装置を利用する。

=====

JACLaP WIRE, No.62 (2003年9月3日発刊)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読(配信)・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

E-mail : jaclap_wire@yahoo.co.jp

TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ：<http://www.jaclap.org/>
JACLaP WIRE バックナンバー：<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添え

て jaclap_wire@yahoo.co.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
